

鯨鯢得其便 張口欲吞舟

鯨鯢其便を得、口を張って舟を呑まんと欲す

萬里無活鱗 百川多倒流

萬里活鱗無く、百川倒流多し

遂使江漢水 朝宗意亦休

遂に江漢の水をして、朝宗意亦休せしむ

蒼然屏風上 此畫良有由

蒼然たり屏風の上。此の畫良に由有り

(本文は『白居易集箋校』朱金城箋校に拠り、訓は統国訳漢文大成『白樂天詩集一』に概ね拠る。)

この白詩において、鯨鯢が舟を呑む意は、広大な万里にわたって穏やかな海をその性を全うして泳いでいたありとあらゆる大魚小魚を、まるで舟を呑みこんでしまうかのように、鯨鯢がその大きな口で丸呑みにしてしまうこと、そのために万里にわたって活きた魚がいなくなるほどの衝撃を表わしている。

政に言い換えてみれば政治が穏やかでとてもうまく治まった世の中において、一人の国家を奪おうとする人間がことを起こし、国を丸呑みにして天下を我がものとしてしまうことの意味になるのではないか。「鯨鯢」を人間に置き換えれば、この残酷な行爲を犯した大罪人といえよう。

所功氏の著には

「改元詔書」の文中には「逆臣」道真を「鯨鯢」になぞらえて非難するようなどころがあったとみられる。とすれば、この延喜改元は辛酉革命説や老人星出現を表向きの理由としながら、それも実は巨魁道真の左遷を正当化する目的のための手段に過ぎなかったことになろう」との言及がある。

(所功著『三善清行』吉川弘文館一〇〇頁)